

- 四日市市では、令和7年度において、小中学校の老朽化した図書室用机・椅子、図工室・技術室用机を更新する際、県産材・国産材を使用した備品整備を行った。
- 令和8年度においては、児童生徒が授業を始めとした教育活動を通じて使用することにより、県産材・国産材に触れる機会の創出を図る予定。

□ 事業内容

1 小中学校図書室・図工室・技術室の備品整備

- ・ 老朽化した内部東小学校・大矢知興譲小学校・大池中学校の図書室用机・椅子の更新において、県産材を使用した備品整備を行った。
- ・ 老朽化した海蔵小学校の図工室用机、大池中学校の技術室用机の更新において、国産材を使用した備品整備を行った。

【事業費】31,672千円（うち譲与税31,672千円）

【実績】内部東小学校（図書机12台、図書椅子48脚）

大矢知興譲小学校（図書机12台、図書椅子48脚）

大池中学校（図書机12台、図書椅子48脚）

海蔵小学校（図工室児童用机18台、図工室教師用机1台）

大池中学校（技術室生徒用机9台、技術室教師用机1台）

□ 取組の背景

- ・ 市立小中学校（全59校）の大型備品について、多くの学校で老朽化が進んでいる。更新を行うとなると巨額の費用が必要となるため、老朽化に対して更新が追い付いていない状況にある。



（図書室机・椅子）



（図工室机）



（技術室机）

□ 工夫・留意した点

- ・ 児童生徒が使用する図書室・図工室・技術室に県産材または国産材を使用した机や椅子を導入することで、木のあたたかさを直接体験できるようになり、さらに森や木に対する関心を高める環境を実現した。

□ 取組の効果

- ・ 県産材の桧を使用することで、豊かな香り漂う中で木のぬくもりを感じる温かな図書室の空間を整備することができた。児童生徒の学習環境の向上だけでなく、普段なかなか触れることのできない県産材の桧に直接触れる機会となった。
- ・ 「森林環境贈与税」と示したプレートを各備品に取り付けた。そのことで、自分たちの身近な暮らしの中に税金が使われていることを学び実感することができた。また、木材利用が森林保全に寄与することも学ぶことができた。
- ・ 整備された図書室を児童生徒が学習で使用するだけでなく、地域の方々と生徒会役員との会議等にも使用し、地域との連携を進める学びの場づくりにもなっている。

◇ 基礎データ

①令和7年度譲与額：42,383千円		②私有林人工林面積（※1）：966ha	
③林野率（※1）：13.2%	④人口（※2）：305,424人	⑤林業就業者数（※2）：18人	

※1：「2025農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より